

2011年7月3日

「みことばを一心に見つめて離れない」ヤコブ1：21～25

I 悪を捨てみことばを受け入れる。

1. 「すべての汚れやあふれる悪を捨て去り」→汚れやあふれる悪は、みことばをふさぐ。またそのままにしていると「：15」が起こる。「捨て去る」とは、それらの罪を神に正直に告白し、十字架の血によって赦しを受け（Iヨハネ1：7～9）、内住の御聖霊に頼り、日々聖められ、悪から離れるよう心掛けること（ローマ8：13）。
2. 汚れや悪を捨て去るだけではなく、いのちのみことば（聖さと善の源）を心に受け入れる。悪を出すすと心にいのちのみことばを入れるスペースが増し、良いみことばを心に入れると悪が出る。①頭ではなく、「心」に植えつけられたみことば。②植えつけられたとは、その時初めて読む御言葉というより、日頃から良く読み、心に蓄えている御言葉（詩119：11、コロ3：16）。ディボーション、礼拝メッセージの御言葉を蓄えたい。③みことばを「すなおに受け入れなさい」。不品行、悪、人を赦さない怒りの誘惑の中で、植えつけられた御言葉を受け入れ、思い起こし、自分に語り掛け、その御言葉に頼りたい。主は、悪魔に御言葉で勝利された。
3. 「みことばは、あなたがたのたましいを救うことができます」。御言葉にはいのちと力がある。御言葉は、私たちの魂を救い、汚れ、悪、悪口から守り、聖さ、愛、自制の実を結ばせる。

II みことばを実行する。：22～25。

1. みことばを→①良く聞く。：19。②すなおに受け入れる。：21。③そのみことばを実行する時、そのみことばが本当に自分のものになる。実行しようとする時、自分の力では無理（自分には愛、聖さが無い）とわかり、ますます主により頼む。泳ぎの方法が、用紙のテストで満点でも、実際に水に入り学んだ事を実行する時にはじめて、泳ぎが自分のものになるように。みことばを聞くだけで日常生活に活かさないことにならないように祈りつつ気を付けたい。
2. みことばを聞くだけで実行しない人は「自分を欺いている」：22。聞いたことを、自分の事として受け取らない。「このみことばは、あの人にピッタリだ。あの人に聞かせたかった」と考え「これは私への主の御言葉」と受け取らず、聞くだけで心と生活は変わらない。「もうこの御言葉の教えは何度も聞き知ってますよ」と高ぶる。そうではなく、御言葉を真剣に自分への主の語り掛けとして聞き味わい、反芻する時、深く教えられ、その御言葉そのものに力があり実践が生じてくる。真実に御言葉を「聞く」とことと「実行する」ことが御聖霊により結び付けられる。
3. 聞くだけで実行しない人のたとえ。：23，24。その人は、「自分の生まれつきの顔を鏡で見る人のよう」。すぐに自分の顔を忘れる。御言葉も「鏡」として私たちの心の状態をあらわに映し、どんなに罪に汚れたものか、また日常の日々の心の姿がどのようなものであるかを示して下さる。そうされながらも、そこに示された罪を悔い改めようとせず、御言葉の勧めも実行しようとしなければ、真の成長はない。実行する気もなく、御言葉を聞くと忘れやすい。私たちも、御言葉を聞くだけで、日常生活ではすっかり忘れ、信仰と日常生活が分離してしまわないように祈りたい。
4. みことばを実行する人の特徴。：25。①「完全な律法、すなわち自由な律法（みことば）を一心にみつめて離れない」とどまる（ヨハネ15：4）。みことばを一心にみつめる（熟視する）。「罪が熟す

ると死を生む」(ヤコブ1:15)が、逆にいのちの御言葉は、熟視され留まる、反芻する、御言葉を記し持ち歩き見、思い起こす時、いのちある行動、実行を生む。御言葉を一心にみつめて、真の意味を知ろうとする。すぐにすべてがわからなくても、見つめ続ける。時が来て理解させられる。生涯教えられ続ける!飽きる事はない。御言葉は深い。②「完全な律法、自由の律法」とは＝神が私たちに与えられた御言葉、聖書。i 神の律法、みことばは完全で誤りがない。人間の律法は、いつも時代により変わる。しかし神の御言葉は不変。だから安心して御言葉を読み従える。歴史的、科学(科学が真理なら。科学の仮説は変わる)の面でも誤りのない聖書。ii 真の自由(救い)を与える律法(聖書)。間違ったユダヤ人たちは、旧約聖書の精神(愛、憐み、神への信頼心の聖さ)をおろそかにし、外側だけを気にし、自分勝手に解釈し、多くの規則を付け加え、自分たちと人々を窮屈にしていた(マタイ23:13, 14, 23~28)。本来、御言葉は私たちを罪から自由にする(ヨハ8:32)。御言葉(主を信じる者に与えられる十字架による赦しと永遠の命の福音)を信じる時、新しい命・性質、御霊の内住を受ける。その新しい性質と内住の御霊の教えにより聖書を読む時、その御言葉は単なる文字ではなく、主に喜ばれる行いを結ぶ命、力である(Ⅱコリ3:6)。御聖霊は、御言葉と共に働かれ、私たちに、主に喜ばれる事が出来る自由を与えて下さる。聖書の言う自由とは、悪い事でも何でもしても良い自由ではなく、罪の束縛から解放され、主の喜ばれることができる自由。御言葉を喜び楽しみ従える自由。「私は、あなたのさとしの道を、どんな宝よりも、楽しんでいきます」詩119:14。

Ⅲ 御言葉を実行する結果。「その行い(御言葉の実行)によって祝福されます」:25。「それ(互いに足を洗い合う)を行うときに、あなたがたは祝福されるのです」ヨハ13:17。祝福とは＝神に喜ばれ、神の恵みを体験させられ味わえること。私たちの喜びそのものである神、祝福の源である神ご自身がそばにいて下さることこそ祝福である。聞くだけで御言葉を実行しない人は、日常生活の中で神を体験できない。御言葉を良く聞き、一心に見つめて離れないで実行する時、神の祝福がある。その祝福とは、その御言葉の理解がますます深まる事でもある。「その人は主の教えを喜びとし、昼も夜もそのおしえを口ずさむ(思い巡らす)。その人は…時が来ると実がなり、その葉は枯れない。その人は何をしても栄える(主の祝福を受ける)」詩1:2, 3。